



[本校] 〒950-2292 新潟市西区みずき野3-1-1  
tel. 025-239-3111 fax. 025-239-3690  
[新潟中央キャンパス] 〒951-8068 新潟市中央区上大川前通7-1169  
tel. 025-227-7111 fax. 025-227-7117  
http://www.nuis.ac.jp somu@nuis.ac.jp

平成28年 1月1日 発行

## 平山学長新春あいさつ 2面

# 新たな輝かしい歴史を刻む年に

## JABEE修了同窓生らが交流会 3面

## 新潟市の交流事業で中国・済南市に初の派遣 4面

## 平成28年度一般入試日程の概要とポイント 8面

編集部では表紙を飾る写真を募集しています! 投稿方法は [nuischannel@nuis.ac.jp](mailto:nuischannel@nuis.ac.jp) までお問い合わせください。

### CONTENTS

#### 2・3面

平山学長が新潟大会実行委員長に  
スペシャルオリンピックス冬季競技  
沖縄をテーマに国際理解講演会

#### 4・5面

教員海外研修便り  
ズームアップ研究室  
新潟市議会報告でグループ学習  
教員の活動

#### 6・7面

福祉・介護・健康フェアの展示に人気  
青少年のための科学の祭典に出展  
企業懇談会で263社と情報交換  
完成稿に向け卒論中間発表会

紅翔祭・活気に満ちたキャンパス  
湧源・編集後記に代えて

#### 8面

異文化塾「イスラーム世界を読み解く」  
卒業生の便り



NUISホームページ  
<https://www.nuis.ac.jp>  
(スマートフォン対応)



Facebookページ  
<https://www.facebook.com/nuis.face>



LINE@  
[@nuis-line3111](https://line.me/tv/nuis-line3111)

LINEの「友だち追加」から「ID検索」で登録

# 新たな輝かしい歴史を刻む年に

「大学は誰のために―あらためて考えよう」



学長 平山 征夫

学生諸君、教職員、ご父母の皆さま明けましておめでとうございませう。新しい年を

いかがお迎えでしょうか。皆さ

まにとつて本年

がより良い年にな

りますよう心

より祈念いたし

ますとともに、

本学にとりまして新たな輝かし

い歴史を付け加える年になります

よう願っております。どうぞ本年

もよろしく願ひいたします。

昨年、経済的には世界・日本とも緩やかな回復基調で推移しましたが、政治的にはTPP交渉の大筋合意、安全保障体制改定など大きな出来事がありました。何

せる年でしたが、教職員の努力、ご父母の支援もあって一定の成果を上げられたと思っております。本年はその3年目、現在検討中の「中長期戦略計画」を本年度中にまとめ、さらなる改革に向けたスタートを切る年にしたいと考えています。それは「2018年問題」と言われている一段の少子化を控

## さらなる改革で魅力を高め 地域に必要とされる存在に

よりも「イスラム国」によるテロ多発という極めて対応の困難かつ由々しい事件がありました。その背景についてはさまざまな指摘がされていますが、差別と貧困が大きな要因であることは否定できないでしょう。国際理解を学び研究している本学としても、この問題を強い関心を持って見守ってきた

年でした。20周年を期して実施した2学部制などの改革が2年目を迎え、改革の意義をいっそう発揮し定着さ

「地域が必要とする人材を地域で育てる」と同時に「地域に役立つ若い若者に活躍の場を提供する」

にはどうしたらよいかが求められていると思います。安倍政権が打ち出した「一億総活躍社会の実現」がどんな方向を目指すものか分かりませ

んが、「地方消滅」対策として打ち出された「地方創出」が期待はずれであることからしても、「地域の持続」は国の事業を待つのではなく、地域自らの発想に基づいて自らの力で取り組んでゆくべきでしょう。その時こそ大学は「地域の中核」となる気概で、自らが存立する地域社会のため役立ちたいものです。

え、本学の魅力をいっそう高め、学生や企業

## 「スペシャルオリンピックス日本冬季ナショナルゲーム新潟大会」

私は現在、表題の冬季大会の実行委員長を務めています。2016年2月12～14日の3日間、新潟市と南魚沼市で開催されます知的障害者の全国スポーツ大会です。

身体障害者のパラリンピックスは誰でも知っていますが、知的障害者のスポーツの祭典スペシャルオリンピックス(SO)はあまり知られておらず、苦戦しながら多くの市民・企業等の協力を得て目下大会開催に向けて最後の準備中です。

新潟でこの大会を開催しようと決意したのは、新潟県のSOの会長として知的障害者と健常者の共生社会実現への理解

を深めていただくには、大会開催が一番と考えたからです。前回は3.11の翌年、福島があの被災の中から立ち上がって開催されました。それにも刺激され、われわれは県民の皆さまにアスリートの奮闘ぶりを見ていただくだけではなく、一緒にボランティア活動に参加していただき(これを私たちはMittoと呼んでいます)、共生体験を通じて知

的障害者の純粋な人間性、優しさに触れていただきたいと願っているからです。

どうか大会を見においでください。その前に募金・ふるさと納税などでの支援にもご参加ください。力いっぱい、ひたむきにプレーする彼らの姿は感動と、何ともいえない温かい風を送ってくれるでしょう。

【大会概要】1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたデイ・キャンプがスペシャルオリンピックス(SO)の始まり。オリンピックと同様に4年ごとに夏季・冬季の世界大会を開催している。

新潟大会は新潟市の朱鷺メッセ展示ホールと新潟アサヒアレックスアイスアリーナ、南魚沼市の五日町スキー場の3会場で開催。2017年オース

トリアで開催される世界大会の日本選手団選考を兼ねている。実施競技はアルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケーの7種目。約700人が参加する。SOでは、活動に参加する知的障害者をアスリートと呼び、健康や体力増強、スポーツスキルの向上だけでなく多くの人々と交流し、社会性を育むことを目的としている。

共生社会実現へ理解深める

平山学長が大会実行委員長



日本技術者教育認定機構(JABEE)による情報システム技術プログラムがスタートし、今年で10年目を迎えました。JABEEの認定制度は、高等教育機関で行われる教育活動の品質が満足すべきレベルにあることを審査・公表するもので、JABEE修了生は卒業後、修習技術者として継続的に研さんを積むことが期待されています。そこで本学では、JABEE修了生や社会で活躍している卒業生を支援すべく、一昨年より勉強会・交流会を実施してきました。

## 東京地区(7/4)

中央大学の神田駿河台記念館で開催されました。文科省における科学技術人材育成や技術士制度の今後の展開について情報共有した後、参加者全員による自己紹介とコーティング演

# JABEE修了同窓生らの交流会を開催

習を行いました。さらに特別講義として、日本技術士会情報工学部会幹事の西原浩一技術士(情報部門)から「技術者にとっての継続学習の必要性―体験報告―」と題し、自らの体験をふまえ、実務の中でいかに継続して勉強していくことが大事であるかを講演していただきました。

## 新潟地区(10/31)

本学の新潟中央キャンパスで東京地区とほぼ同様の内容で



東京会場

## 社会で活躍している卒業生を支援

実施しました。特別講義は「良い仕事」を目指す技術者倫理」と題し、有限会社・佐藤R&D代表取締役、一般社団法人技術士PLセンター代表理事の佐藤国仁技術士から、企業での実務経験や大学(院)等での技術者倫理に関する教授経験をふまえたご講演をいただきました。あらためて良い仕事について考える機会となったことと思います。

また、初めての試みとして、10月11・12日に開催された大



新潟会場

## 継続学習の必要性／良い仕事を目指す

学祭(紅翔祭)にJABEE委員会としてJABEE説明ブースを設置したところ、多数のJABEE修了生や技術士資格に関心のある卒業生に立ち寄っていたきました。日ごろの職場での活躍状況や大学への要望などをうかがうことができ、貴重な機会となりました。

今後も、交流会や紅翔祭のJABEE説明ブースなどを同窓の仲間との情報交換の場として、また同窓生と教職員が生涯研さんしていく際の支援の場として利用していただけるよう内容を充実してまいりますので、テーマや実施方法など要望がありましたら本学までご連絡ください。

最後に、実施にあたりご協力をいただいた日本技術士会および同情報工学部会に感謝いたします。

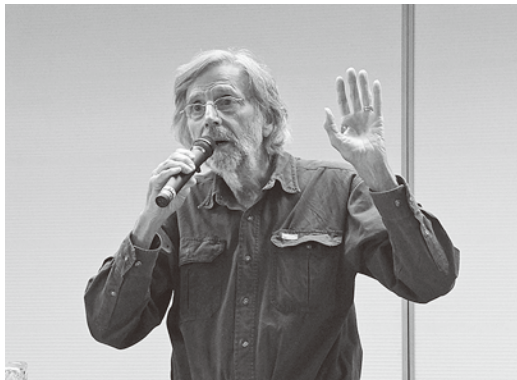
(情報システム学科・教授 小林 満男)

## 国際理解講演会

## ダグラス・ラミス氏を迎えて

今年度の国際理解講演会を12月6日、沖縄在住のアメリカ人国際政治学者ダグラス・ラミス氏(元津田塾大学教授)をお招きし、本学新潟中央キャンパス9階講堂で開催しました。

ラミス氏は「終戦70年『要石』としての沖縄」と題して講演し、新聞の世論調査から、ヤマトの人々は日本国憲法第9条に賛成しながら、日米安全保障条約も必要であると考えているとして、その矛盾する見解を繋



いでいるのが沖縄という「要石」であると述べました。

日米安全保障条約に反対する見解も、沖縄に米軍基地が集中していることを放置し、ヤマトに移設するのは「危ない」と考えるなら、沖縄の世論を無視しているのだと合わせて述べました。ヤマトの人々の「植民地主義」を鋭く批判するラミス氏の言葉は、一般市民にとっても分かりやすく、それだけに非常に苦い提言でした。

講演後、フロアから予定された時間が過ぎるくらいに多くの質問が出され、ラミス氏はそれらに丁寧に答えられました。当日は天気も良く、盛況のうちに講演会が終了しました。関係者の皆さまに御礼申し上げます。

(国際交流委員長 国際文化学科・教授 吉澤 文寿)

## 「終戦70年『要石』としての沖縄」





人々の行動や考え方の謎を解明しています。今年の4年生は「クーポン券を不便に感じている人にもっと使ってもらえる工夫」「アルビレックス新潟の試合を見にスタジアムに足を運んでもらうには、どうしたらいいか」「お金や単位というご褒美(外発的動機)ではなく、勉強の面白さ(内発的動機)でモチベーションを上げることが出来るのか」「どのような練習方法でバドミントンが上達するか(複数の地域のクラブで上達を計測!)」「赤目のキャラクターはどのような印象を与えるか」「顔のパーツ・配置が第一印象に与える影響」「性格は車間距離に影響を与えるか」「夜遅くまで起きているのは、昼間、生活が充実していないからか」「どのようなポスターが目立つのか(文字と絵に着目する人々の相違を解明)」などのテーマに取り組んでいます。

一見、バラバラのようですが、共通点が2つあります。第1に皆さん、自分の関心の高いテーマに取り組んでいることです。ラクなテーマに流されずに自分の関心を貫くことは、なかなかできることではありません。第2に、多くの人々の視点を研究に取り入れていることです。既存の文献のみならず、イ



## 多様な価値観で人々の行動の謎を解明

ゼミ生の  
卒業研究  
テーマ

女性が将来性に惹かれて交際  
その男性は女性に尽くさない?!

4年・熊谷 太陽

交際しているカップルは相手のどのような点に惹かれたのか(交際理由)、交際後、どのような関係を築いているのか(恋愛観)を研究しています。

カップルを対象にアンケート調査を実施し、そこから得たデータを因子分析して、交際理由を5タイプに分類しました。そして、この5タイプと恋人との関係を掛け合わせて分析しました。その結果、交際理由がその後の恋愛に少なからず影響を与えていることが明らかになりました。例えば、女性が男性の将来性に惹かれて交際した場合、その男性は女性に対し、尽くさないタイプであることが分かりました。この研究が進むことで、構築したい関係にマッチした相手を選ぶことができるようになる、かもしれません。

インタビュアーやアンケート、ワークショップなどを駆使して、自分の価値観、視点にのみとらわれることなく、データ・根拠を集め、研究に取り組んでいます。4年生はこの研究室で学んだことを質問しました。つまり調査・分析手法や、論文を読むことといった回答が返ってくると思いきや、「数人で考えたとあつという間にアイデアが生まれる」という答えが返ってきました。異なる価値観・視点に触れることでアイデアが生まれることを実感してくれているようです。他者と協力することの有効性を感じ持つことは、科学、そして民主主義の基本ではないでしょうか。

学生たちは3年の時に、ワールドカップのパブリックビューイングを自分たちで実現し、また地域の祭りでは、地産地消の屋台を出店することで多くの方々と触れ合い、勉強させていただきました。自分の関心を大切に、しかし他者の価値観・視点に耳を傾け、議論を通して、新しいものを創り上げていく、学生たちは私の想定以上に成長を遂げてくれました。一重に地域の皆さまのご尽力と、学生たちのたくましい好奇心の賜物かと存じます。

## 学生と議員がグループ学習

## 新潟市議会の議会報告会(新潟中央キャンパス)



本学の学生と市議によるグループ学習という形式の、新潟市議会の議会報告会(中央キャンパス)が11月28日、本学の新潟中央キャンパス「コワーキング・ラボこくじょう」で開催されました。市議による一方的な活動報告ではない会で、実はこの方法は昨年、議会報告会がはじめて本学で開催されたときに試されたものです。昨年は非常に活発な議論となつたことから、今年度も同方式での開催となりました。テーマはBRT、少子化問題、産業振興など、すべて現在の新潟市にとって重要なものばかりでした。議員と学生との間で熱い議論が展開され、その内容がすぐにグループ別に報告されました。

選挙権が18歳まで拡大するなか、本学学生がこのような市議会議員と討論することは、学生自身の市民としての自覚も深まったはずで、また一方で、議員の皆さんも市民の政治意識の幅の広さを再発見されたようでした。

(国際文化学科・教授 越智敏夫)

## 教員の活動(本人申告による)

### 1) 研究論文・図書

白井 陽一郎(国際文化学科・教授)

・(2015年)「EUのマルチレベル・ガバナンス論—その統合理論としての意義の再考」『国際政治』182号(16-29頁)

小林 元裕(国際文化学科・教授)

・(2015年)吉田裕 他「阿片政策、有田・クレギー会談等12項目を執筆」『アジア・太平洋戦争史』

### 2) 学会・研究会・講演等

安藤 潤(国際文化学科・准教授)

・(2015年9月11日)「日本の夫婦の家事・育児分担とワーク・ライフ・バランス」にいがた市民大学「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をとるために」(クロスバールにいがた)

・(2015年10月8日)「Identity Economics and Housework Behavior of Wives of Dual-Earner Couples: Empirical Analysis Using JPSC 2000—2008 Panel Data」, Department of East Asia

(University of Vienna, Austria)

區 建英(国際文化学科・教授)

・(2015年9月1日~9月2日)「孫文の民族主義の実践と創造」 国際学術シンポジウム「儒学の道統と民主共和」(台湾師範大学, 台湾)

・(2015年10月23日~10月25日)「孫文の民族主義の実践と創造」 国際学術シンポジウム「近代文化と近代中国」(北京師範大学, 中華人民共和国)

・(2015年11月11日~11月13日)「孫文の民族主義と大アジア主義」 国際学術シンポジウム「伝承と革新: 紀念孫中山誕生150周年」(國父紀念館・台湾大学, 台湾)

神長 英輔(国際文化学科・准教授)

・(2015年7月12日)「露領漁業から北洋漁業へ—デンビー商会の盛衰」中国四国歴史学地理学協会2015年大会(広島大学)

・(2015年10月3日)「コンプから考えるロシア極東史」来日ロシア人研究会例会(青山学院大学)

・(2015年7月4日)「外交 北洋漁業と自治体外交」2015年度 にいがた市民大学 新潟学コース(大学コンソーシアム連携講座) 新潟150年史: その世界史的的位置(クロスバールにいがた)

# 2研究室の展示に人気

福祉・介護・健康フェア2015

過去最高の1万5,000人が来場

## 「秤が無くても使える栄養計算DB」

前年に引き続き、本学卒業生の増野里江子さん（2002年度卒・現㈱ソネット）が作成した栄養計算データベース（DB）を紹介するブースを出展しました。

ブースを訪れた人に、自分で食べた朝食で実際の使用方法を体験していただき、前年より多くの方々に大きな関心を持っていただきました。年

容をできるだけ正確に紹介したところ、難しいとの評価でした。今回の今回は操作方法と、計算結果の利用に関する説明に焦点を当てた説明としました。計算結果に栄養バランスをグラフで表示できる機能を追加したこともあって、分かりや

用は限られています。今回、新潟市でもニーズがあることを確認できたので、説明や利用方法をよりやさしくして、新潟地域からの利用を促進する努力を今後も続けたいと思います。

（情報システム学科・教授 高木 義和）

## 栄養バランスをグラフで表示 朝食のデータに中高年が関心

「福祉・介護・健康フェア2015」（11月15日・朱鷺メッセ）に、本学から情報システム学科の高木・河原両研究室が前年に引き続き出展しました。当日は145企業・団体が参加し、過去最高の約1万5000人が来場して大いににぎわい、両研究室のユニークな内容のブースにも多くの人が訪れました。

代は健康が気になる50歳から80歳代の方や親子の方が多かったのですが、1人20分程度かかるにもかかわらず、熱心にパソコン（PC）に向かっておられました。80代を含めPCを自分で操作できる方が多かったので驚きました。前年は発表会場でDBの内

すかったとの意見をいただくことができました。このDBはGoogleで「栄養計算」の1キーワードで検索すると、この1年の間、大企業のページを抑えて1位に表示されます。アクセス解析を行うと、東京・大阪などの大都市ばかりで、新潟からの利



## 「視覚のシミュレーション」

河原研究室では、ブース展示およびセミナー講演を行いました。昨年は「みまもりロボット」「CGによる手話学習ソフト」「視覚のシミュレーション」の3つの内容を展示しましたが、今年はその中から「視覚のシミュレーション」に絞って発表しました。

「視覚のシミュレーション」は、色覚に障がいがある人の見え方や、視力が悪い人の見え方を画像処理でシミュレートしたものです。もともとは2006年度の卒業研究のアイデアに基づいた研究です。視力が悪い人は、眼鏡やコンタクトレンズなどを用いる

ことで普通の視力で見ることができ、色覚に障がいのある人も、特定の機材を用いることによって完全ではありませんが普通の視力を体験すること

USBカメラで映した映像を、視力が悪い人の見え方に見ることが出来ます。また、ヘッドマウントディスプレイにカメラを装着することにより、見ている方向の画像がそのような処理をし

## 色覚の異常な見え方など体験 福祉関係者から有意義な感想

とができます。しかし、視力が良い人や色覚に障がいがない人は、そうでない場合を体験することは難しいです。今回の展示では、その体験ができるようなPCによるシミュレーションソフトを開発しました。PCに接続した

た画像とするようなシステムも作成しました。体験してくださった方からは興味深い、今後役に立ちそう、というような感想をいただきました。フェアに参加することによって、研究を行っているだけでは得られないような、一般



の方や実際に福祉・介護に携わっている方々の感想やアドバイスをもらえ、今後の研究を続けていくうえで有意義な時間となりました。

（情報システム学科・講師 河原 和好）

## 湧源

編集後記に代えて

入試・広報委員長 小宮山 智志

本学の師走は、卒業研究の締め切り月です。学内のPCの前では、真剣な顔つきで論文を執筆している多くの学生たちの姿を見ることが出来ます。卒業研究は、学生が自分でテーマを選び、4年間の集大成として、新しい知識を創造します。

本学では、両学部ともに卒業論文が必修です。つまり、全員が卒業論文を執筆します。今の日本で、全学部の全員が卒業論文を執筆する大学がどれほどあるでしょうか。これは本学が誇れる点の一つだと考えています。

卒業論文は、1年以上かけて多くの文献を読み、調査・実験し、分析し、そして考え抜き、執筆します。論文で求められる高いオリジナリティーや、根拠に基づいた議論は、彼らが生きる、情報化・国際化がさらに進んだ「これからの世界」では、より重要性が増すでしょう。さらに、3年生までの数週間のレポートと違い、計画性、そしてなにより自己を律する克己心が求められます。卒業後、教員はいません。一人で歩んでいく旅立ちのイニシエーションです。

今日、私は東京に出張なのですが、ゼミのLINEを見ると、お互いに草稿をチェックし合っているようです。もう、私の出番はなさそうです。これからは教員・学生との関係ではなく、お互いに地域人・地球市民として、共に新潟に、世界に貢献していこう。今日も、情報文化の発展と世界平和の実現を確信することができた幸せな一日でした。



# 「青少年のための科学の祭典」に1万人



## 263社が参加し企業懇談会

企業、団体の代表者や採用担当者、本学教職員が情報交換する企業懇談会が11月18日、ANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。20回目の今年度は263社、385人の皆さんに参加いただきました。恒例の講演会には荒俣宏氏（作家・博物学者・武蔵野美術大学客員教授）を迎え「自分を磨く・好奇心を楽しむ」と題し講演していただきました。

## 就職近況を説明、協力に感謝

本学を代表して平山学長が、創立20周年を期して創設した2学部制が一定の成果を上げ、さらに大学の魅力をいっそう高め地域に役立ち必要とされる人材教育に努めたいと話し、採用活動に協力いただいている企業の関係者に感謝の意を表しました。講演会では荒俣氏がその博学ぶりを披露して広範な話題が尽きず、皆さん時間を忘れ聴き入っていました。

## 異例の日程変更でも情報交換

懇親会では和やかに情報交換などが繰り広げられ、小林満男就職指導委員長（情報システム学科教授）ら教職員が就職状況の近況を説明しました。今年度の就職活動は会社説明会など採用情報の解禁が3月、面接など選考開始が8月に変更となつて短期決戦で実施されたばかりでしたが、来年度は会社説明会の3月はそのまま変えずに、採用選考の解禁日を2カ月前倒しして6月とする、2年連続の異例なスケジュール変更についても話題となり、混乱を招くことのないよう、より密接な情報交換を確認しました。



「光受信機を作ってみよう」の光をきいてみよう！——情報システム学科近藤研究室の学生6人が「青少年のための科学の祭典」新潟県大会（12月5、6日・長岡市のアオーレ長岡）にてブースを出展、両日の参加者は1万人を超えました。

## 光通信の演出に歓声

### 近藤研究室の6人が出展

ブースでは半田付けしないで回路を組み、ブレッドボードを用いて、電気回路の製作を体験し、参加者はペアを組み、一人が光送信機もう一人が光受信機を10分ほどかけて作り出しました。光受信機に向けて家庭用リモコンのボタンを押すと、見えない赤外光でブツとデジタル音が聞こえることを確認していました。次に、スマホからの音楽を送信機でいったんLEDの光にして送信し、その光を受信機で電気スピーカーからその音楽が聞こえると、参加者から歓声が上がりました。



情報文化学科恒例の卒業論文中間発表会が11月7日、本校（みずき野キャンパス）で開催されました。全4年生が卒論の基本的なアイデアや構成を中間報告という形で発表する機会です。

## 完成稿に向けて質疑応答

## 恒例の卒論中間発表会 情報文化学科

この発表会には3年生によって全て運営されるという特徴もあります。124人の発表をテーマ別に10教室に分け、各教室では司会、タイムキーパーなど4人の運営委員が研究発表の進行を担当します。当日使用するプログラムなどの作成や、パワーポイントなどのための機材設置も含めた会場運営も運営委員によって行われます。今年度は総勢52人の3年生が運営委員を務め、開会式、閉会式も正・副の運営委員長が司会を担当しました。

## 紅翔祭を終えて

実行委員長 新村 蓮（情報システム学科3年）

## 協力すること…大切なことを学ぶ



第22回紅翔祭（10月10・11日）が無事終了しました。11日には雨と強風の荒天となり、途中から幾つかテントを畳まなければならぬアクシデントはありましたが、大きなけがもなく、ほっと一安心しております。

今年度も多くの模擬店が並び、イベントが繰り広げられ、多くの皆さんにご来場いただき、キャンプが活気に満ちました。10日には、西区大農業まつりを合同開催させていただき、朝から多くの方々にご来場いただき、泥付き大根3千本余りと豚汁も完売など大変なにごわいでした。ご協力いただいたJA・西区役所の方々には大変お世話になりました。

そして、父母会・みずき会の後援で開催された文化講演会では、漫画家・俳優の蛭子能収氏をお招きしていただきました。生い立ちや現在人気となるまでの人生を語り1時間ほど質問コーナーとなりましたが、会場から終始笑声が聞こえる非常に楽しい講演となりました。

2年間実行委員長を務めさせていただきましたが、やはり人の協力なしではイベントやプラ行かないということを実感いたしました。お互いが気遣いながら欠点を埋めるよう協力し補えば、そのイベントは良い方向へと向かうでしょう。非常に大切なことを学べたと思います。

就職状況の近況を説明しました。今年度の就職活動は会社説明会など採用情報の解禁が3月、面接など選考開始が8月に変更となつて短期決戦で実施されたばかりでしたが、来年度は会社説明会の3月はそのまま変えずに、採用選考の解禁日を2カ月前倒しして6月とする、2年連続の異例なスケジュール変更についても話題となり、混乱を招くことのないよう、より密接な情報交換を確認しました。



※出願期間内消印有効。

**募集学部**

※詳細は「平成28年度学生募集要項」または  
本学ウェブサイト(<http://www.nuijs.ac.jp/>)でご確認ください。

## 新潟国際情報大学 学報 国際・情報 平成28年1月発行 2015年度 No.4